

2023.06.22

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
令和 4 年度事業報告書

事業環境

令和 4 年度は、ロシアによるウクライナ侵攻の継続の影響によるエネルギー価格の高騰、円安の進行、物価高などの不安要素が続くなかでの運営となった。COVID-19 の影響については、上期には一時感染拡大がみられたものの、下期には収束傾向に入り、欧米に比べて出遅れていた日本の脱コロナ・ウイズコロナ政策も、アフターコロナへの回復基調・規制緩和が進むなかでの運営となった。

こういった状況下、P2M 資格試験・講習については、受験者増が全般に見られ、リスクリングへの対応、講座のハイフレックス化、PR 活動により、過去最高の受講者となる講座が多くみられた。また、企業団体講習についても、既存顧客の講座増、新規顧客開拓がなされた。

PM シンポジウム、東京開催 PM セミナー、地域開催 PM セミナーなどのイベントについては、PM シンポジウムは計画値を上回ったが、他のセミナーについては計画値を下回る結果となった。

部会・SIG 活動については、新部会・新 SIG の発足、会員活動全国大会実施など、活動範囲の拡大により活性化を達成することができたが、入会金・会費収入については、会員増強施策を実施したが、法人会員・個人会員ともに計画値に達しなかった。

以上の結果、収入面では予算より約 7,700 千円の増収となったが、支出面では予算より約 200 千円の増加となった。その結果、最終収支は約 7,500 千円のプラスとなった（詳細は資料 1-2 参照）。

1. 全般運営

(1) 総会・理事会の開催

- ① 通常総会 1 回、定例理事会 4 回をオンラインで開催した（表 7、表 8 参照）。
- ② 運営会議 11 回をオンラインで開催した（表 9 参照）。

(2) 新役員の選任

6 月 24 日（木）開催の定時総会において退任に伴う交代として理事 1 名が選任された。

2. PMAJ 施策

(1) 会員（法人・個人）

- ・会員増加施策として、会員専用の閲覧動画アーカイブスの増強、会員向け無料セミナー開催など会員メリット向上に努めるとともに、PMAJ News、メール・紙媒体での入会・更新の呼びかけ、PM シンポジウム・各セミナーの幕間でのビデオ放映での入会呼びかけ、部会・SIG や地域 PM 研究会を通しての入会呼びかけ、理事への呼びかけなどを実施した。

- ・法人会員は1社増の68社、個人会員は33名減の849名となり、いずれも計画値に達しなかった。
- (2) 部会・SIG活動
- ・新SIG「価値創造型PM人材育成研究会SIG」が2022年9月に発足しSIGは合計10となった。また新部会「P2M普及・推進部会」が2023年2月に発足し、部会は合計5となった。
 - ・会員活動の自主運営のためのIT化のツールとして、Google Workspaceを提供し、一部運用を開始した。
 - ・2021年11月に発足した「部会SIG会員活動交流タスク」にて、これまで11回ミーティングを実施し、部会・SIG活動の活性化に向けた議論を継続した。
- (3) 地域創成に貢献するプログラムマネジメント
- 各セミナーにおいて、地域創成を実現する事例を広く発信し、プログラムマネジメントの普及に努めた。
- (4) IT化・DX化
- 従来アクセスで管理していた会員情報、資格取得者の情報などのSalesforceへのデータ移行を実施した。
- (5) 広報・マーケティング
- ・メルマガ、PMAJ News、PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルの発行や、YouTube、Facebookでの発信を行い、活動内容の紹介、行事への参加者を募った。
 - ・個人正会員宛に、紙媒体にて、PMAJ ジャーナルの抜粋、会員限定コンテンツの充実情報の通知および会員更新の呼びかけを行った。
- (6) P2M標準ガイドブックの改訂
- ・2022年4月に改訂委員会を発足させ隔週で定例会を実施し、改訂仕様方針の検討を行い、P2M第4版の構成の考え方、章立てについて議論し大枠を固めた。また、テーマに応じて、部会・SIGからのヒアリングを行った。
 - ・委員は当初5名でスタートとし、2023年2月から7名とした。
- (7) 理事会中心の運営体制について
- ・地域アクター、PMシンポジウム、部会・SIG、P2M標準ガイドブック改訂、PM普及・人材育成のタスクで理事中心の実践を行った。
 - ・P2M標準ガイドブック改訂については、今期より委員会活動としての活動となった。
 - ・法人会員・個人会員増について、理事へ紹介・勧誘へのご協力をお願いした。
- (8) グローバル対応
- ・GAPPS Thought Leadership Forum (TLF) No.54, 55, 56に参加。
 - ・PMI® ATPを継続、PDUの発行、PMI®関連部会セミナーを実施。
 - ・PMI®とENAA及びPMAJによる3者協定(覚書)のメリットを実現すべく、協議を継続。
 - ・NIN2.P2M (Facebook) PM教宣の為にPMAJの教材を英訳し毎週投稿。PMAJ出版「よりよくわかるプロジェクトマネジメント」を2022年5月まで投稿。現在「プロジェクトの概念」を投稿中。
 - ・グローバルPM-SIGにて英文HPの見直しを協議、部分的改善を実施。

更なる内容、仕組みを含めた改定は来年度協議し実施することとした。

- ・ GAPPS Thought Leadership Forum (TLF)の日本開催(2022年11月)の打診に関しては、COVID-19による入国手続きが緩和され、感染状況が落ち着くまで延期とした。

(9) 会員・資格者交流活動

- ・ 月1回のペースでPMAJ交流会(「P2Mクラブ」「夢工学サロン」)を開催した(12回開催)。

表1 【会員数】

	2021年度 実績	2022年度 計画	2022年度 通期実績
法人会員	83社	96社	84社
法人正会員	67社	80社	68社
法人賛助会員	1社	1社	1社
法人特別会員	15社	15社	15社
個人正会員	882名	1,000名	849名

表2 【会員会費収入】

(単位：千円)

	2021年度 実績	2022年度 計画	2022年度 通期実績
法人会員会費等収入	8,608	9,470	8,597
個人会員会費等収入	5,679	6,700	5,296
会費等収入計	14,287	16,170	13,893

3. PM人材育成事業 (PM資格試験・認定等)

(1) P2M資格試験

- ・ PMSプログラム、PMC、PMRともに受験者数は予算計画値を上回った。PMSは、わずかに計画を下回ったが、PMSプログラムと合わせPMS全体としてみれば計画値を上回った。PMRについては累計合格者が100人をついに突破した。
- ・ 講習会参加者ほどの受験者数が伸びていない理由として、講習会受講後のタイムラグがあるためと考えられる。
- ・ 資格試験の広報活動も継続実施しており、長期減少傾向に変化の兆しが見え始めている。

(2) P2M講習会

- ・ PMC講習会、P2Mプログラム知識習得講座、PMR養成研修、eラーニングの全てで年度予算を達成した。特に企業のリスキリングの取組みと講習会のハイフレックス化等によって、PMC講習会、P2Mプログラム知識習得講座の受講者数は過去最高となった。企業別には、地方の補助金・助成金を活用した企業と原子力を含む電力系企業の受講者数が伸びた。
- ・ PMR養成研修は、年間を通じたPMR資格試験のPR活動(「PMR更新者の声」など)が実を結び、計画値を上回った。

- ・マイナビエージェントのサイトで P2M 資格、マナビ DX のサイトで PMC 講習会の情報が掲載された。マナビ DX は 3 月にリニューアルされ検索機能が改善されプロジェクト又はマネジメントで検索すると PMC 講習会が先頭に表示されるようになった。

(3) 企業・団体・大学向け PM 講座

- ・団体向けの海外人材 PM 研修と一般 PM 研修、及び企業向けの PM 活躍育成講座、PM 研修を実施した。海外人材研修（22 名）は、22 年後半対面研修になって実施
- ・既存顧客からの研修数増加及び新規顧客からの研修依頼があり、計画値を上回った。
- ・対面研修とオンライン研修の両方で行った。

(4) 特別講座・共催講座

- ・特別講座は 2021 年度に実施したアンケート結果に基づき講座テーマの見直しを図った。その結果実施確率が大幅に高まり、9 講座中 7 講座を実施した。
- ・共催講座は応募がほとんどない状態が続いており、オンデマンド配信サポート、e ラーニング化などについて共催元と協議する。

表 3 【P2M 資格試験 応募者数】

資格試験種類	2021 年度 実績	2022 年度 計画	2022 年度 通期実績
PMS 資格試験	156 名	160 名	157 名
PMS プログラム試験	86 名	95 名	111 名
(PMS 計)	242 名	255 名	268 名
PMC 資格試験	393 名	410 名	438 名
PMR 資格一次試験	6 名	6 名	9 名
PMR 資格二次試験	5 名	5 名	6 名

表 4 【P2M 講習会 受講者数】

講習会種類	2021 年度 実績	2022 年度 計画	2022 年度 通期実績
PMC 講習会	57 名	54 名	77 名
e ラーニング	352 名	310 名	393 名
P2M プログラム 知識習得講座	10 名	12 名	25 名
e ラーニング	83 名	50 名	81 名
PMR 養成研修	4 名	7 名	9 名

表5 【PM人材育成事業収入】 (単位：千円)

	2021年度 実績	2022年度 計画	2022年度 通期実績
P2M 資格試験	20,924	21,689	22,949
P2M 講習会	11,222	10,429	14,510
企業・団体・大学等向け PM 講座	8,144	5,680	8,986
各種 PM 講座 (PMP 関連、特別、共催)	1,867	2,095	2,198
事業収入計	42,157	39,893	48,643

4. P2Mに関する普及・啓蒙事業

(1) PMシンポジウム、地域PMセミナー、東京地区PMセミナー

- ・PMシンポジウム参加人数は前年比5%減となったが、計画値は5%上回った。
- ・新春セミナー、地域PMセミナー、産学官連携セミナーは計画値を下回った。
- ・11月12日(土)に「PMAJ 会員活動全国大会 2022」をタワーホール船堀で開催し、部会・SIGの活動内容を広く発信するとともに、参加者間の交流を深めた。また、発表動画をホームページ上に公開した。

(2) 例会(東京・関西)

外部申込サイト(Peatix)の利用が安定してきたことも寄与し、1回当りの申込者数が36人と昨年より5名増となった。

表6 【P2Mに関する普及・啓蒙事業収入】 (単位：千円)

	2021年度 実績	2022年度 計画	2022年度 通期実績
PMシンポジウム	36,560	31,478	33,339
新春・関西PMセミナー	3,550	3,800	3,397
地域PMセミナー・産学官	3,120	2,225	1,936
月例会 書籍販売 広告等	2,959	2,650	3,309
事業収入計	46,189	40,753	41,981

表 7. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2022.6.24	通常総会	434名	令和3年度事業報告(案)および決算報告(案)の件 令和4年度事業計画(案)および収支予算(案)の件 役員選任の件	可決 可決 可決

表 8. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2022.6.2	定例	43名	令和3年度事業報告(案)と決算見通しについて	承認
				令和4年度事業計画(案)と予算(案)について	承認
				役員候補者選任の件	承認
				部会・SIGの活動状況について	承認
				PMシンポジウム2022及びPMAJイベント報告	承認
2	2022.10.20	定例	43名	令和4年度上期事業報告	承認
				PMシンポジウム2022開催結果報告	承認
				P2Mガイドブック改訂作業の現状について	承認
				会員増強について	承認
				PMAJイベントの状況について(付:会員活動報告全国大会概要)	承認
3	2022.12.22	定例	44名	部会・SIGの活動状況について	承認
				令和4年度第3四半期及び通期事業見通しについて	承認
				PMシンポジウム2023の進捗状況について	承認
				会員の状況について	承認
				PMAJイベントの状況について	承認
4	2023.3.23	定例	44名	部会・SIGの活動状況について	承認
				令和4年度通期事業見通しと令和5年度事業計画骨子について	承認
				PMシンポジウム2023の進捗状況について	承認
				PMAJイベントの状況について	承認
				部会・SIGの活動状況及び新部会発足について	承認
				P2Mガイドブック改訂状況について	承認

表 9. 運営会議

回	開催日	備考	回	開催日	備考	回	開催日	備考
1	2021.4.19		5	2021.9.20		9	2022.1.17	
2	2021.5.17		6	2021.10.18		10	2022.2.21	
3	2021.6.21		7	2021.11.15		11	2022.3.14	
4	2021.7.19		8	2021.12.20				

表 10. P2M 講習会実施状況（受講者数推移）

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得	PMR 養成研修
5月	0名	0名	—
7月	11名	3名	—
9月	16名	4名	9名
11月	21名	13名	
1月	21名	4名	
3月	8名	1名	
計	77名	25名	9名

表 11. PM 一般研修

区分	開催日	テーマ等	参加者
PM 研究研修部会セミナー	2022.4.15	第 51 回 PM 研究・研修部会セミナー	30 名
	2023.3.17	第 52 回 PM 研究・研修部会セミナー	14 名
PMBOK®ガイド関連講座	2022.5.21	第 41 回 PMBOK ガイド基礎講座：第 6 版対応	3 名
	2022.9.17	第 41 回 PMBOK ガイド基礎講座：第 6 版対応	4 名
	2022.9.24	第 1 回 PMBOK ガイド詳細解説：第 6 版対応	3 名
	2022.11.19	第 1 回 PMBOK ガイド基礎講座：第 7 版対応	11 名
	2023.2.4	第 2 回 PMBOK ガイド詳細解説：第 6 版対応	5 名
PMAJ 特別講座	2022.5.20	『ものがたり継承法』実践編 吉野	9 名
	2022.6.3	アジャイル開発への道案内 小原	7 名
	2022.7.7	「PGM 教本」著者が語る現場適用 近藤	10 名
	2022.9.2	PM 成功ノウハウを見える化し伝える技法 吉野	14 名
	2022.11.18	『ものがたり継承法』実践編 吉野	11 名
	2023.3.10	PM 成功ノウハウを見える化し伝える技法 吉野	16 名
	2023.3.17	IT 分野のプログラムマネジメント実践的活用 佐藤	7 名
PM 共催講座	2022.4.11	プロジェクト計画書の作り方・書き方・活かし方(4/11-12)	1 名
	2022.9.15	PM 標準 10 のステップ・コース(9/15-16)	1 名

表 12. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
275 回	2022.5.27	吉野 均	「高度な課題解決力」を身に着ける「ものがたり継承法」	47 名
276 回	2022.6.24	PMDX-AWP SIG	AWP の実装と普及活動の紹介	51 名
277 回	2022.7.22	枝窪 肇	お客様が求めている品質とは何か？	49 名
278 回	2022.8.26	竹本 成司	WELL-Being な未来の為のプロジェクトマネジメント	13 名
279 回	2022.9.30	阿部 美穂	ドロッカーに学ぶ伝える技術	47 名
280 回	2022.11.25	坂井 剛太郎	リスクマネジメントの新たな潮流	38 名
281 回	2022.12.23	井上 多恵子	グローバル×AI 翻訳時代の新・日本語練習帳	31 名
282 回	2023.2.24	佐藤 祐也	「できること」から「やるべきこと」へ	33 名
283 回	2023.3.24	奥田 智洋	価値を生み出すプロジェクトマネージャーを目指して	38 名

表 13. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
159回	2022.4.22	小藪 康	ノーコードプログラミング時代におけるプロジェクトマネジメント	39名
160回	2022.10.21	菅 祥護	ソフトウェアの品質向上対策「クオリティゲート」の紹介と活用	28名
161回	2023.1.20	伊達 渡	DX推進者が知っておきたい「起承転結」人財モデル	22名

表 14. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
73号	5月	新春 PM セミナー2022/投稿レポート/PMR 資格試験挑戦
74号	8月	関西 PM セミナー2022/投稿レポート
75号	12月	PM シンポジウム 2022/PMAJ 表彰

表 15. 地域 PM 研究部会の活動報告

No	名称	活動状況等	
地域 PM 研究部会	1	北海道 PM 研究部会	2022年7月8日(金)に北海道 PM セミナー を開催
	2	東北PM研究部会	2022年11月25日(木)に東北 PM セミナーを開催
	3	中部PM研究部会	2022年10月7日(金)に中部 PM セミナーを開催
	4	中四国 PM 研究部会	2022年10月28日(金)に中四国 PM セミナーを開催
	5	関西 PM 研究部会	2022年6月10日(金)に関西 PM セミナー を開催
	6	九州PM研究部会	2022年12月9日(金)に九州 PM セミナー を開催
	7	沖縄 PM 研究会	2022年2月18日(金)に沖縄 PM セミナー を開催

表 16 部会・SIG 活動報告

No	名称	活動状況等	
部会	1	例会部会	3か月サイクルで例会を2回、関西例会を1回の割合で継続的に実施。 最近の状況は以下の通り。 ・2023年5月26日(金) 19:00~20:30 テーマ「チーム力を高めるためにできること」 ～ひとりとの信頼関係からはじめよう～ スピーカー 吉田 則子 (よしだ のりこ) 氏 プロジェクト・カウンセリング・オフィス cocokara/代表 ⇒42名申し込み、会場参加5名
		関西例会	・2023年4月28日(金) 19:00~20:30 テーマ「Web3時代のマーケティング」 ～時代の変化をどう捉えればいいのか～ スピーカー 積 高之 (せき たかゆき) 氏 京都積事務所 代表 ⇒19名が参加した。
	2	PM シンポジウム部会	「PMAJ イベント状況報告について」参照

	3	PM 研究・研修部会	<p>毎月の定例部会、および勉強会を実施。</p> <p>部会講座として、以下を開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月27日、6月3日、6月10日 PMBOK®ガイド第6版詳細解説講座 ・6月17日 PMBOK®ガイド第7版講座 	
	4	APC (Advanced PMR Club)	<ul style="list-style-type: none"> ・PMR の認知向上活動および PMR による価値創造活動を通じて相互啓発し、プログラムマネジメントの普及促進を図ることを目的として、月1回の全体会議で活動結果の報告および活動計画を協議。活動内容は、以下の通り。 ・プログラムマネジメント実践事例集エッセンス版の事例拡充、詳細版発行検討、 ・PM シンポジウムなどでの講演、(2023 のテーマと講演者が決定) ・価値創造についての調査研究 など 	
	5	P2M 普及推進部会	<ul style="list-style-type: none"> ・4月27日(木) 19時から PMAJ P2M 普及・推進部会セミナーを開催。テーマ「DX時代に必要なマネジメントとは～プログラムマネジメント～」 《全ライフサイクルを支援し、組織の目的を具現化する実践アプローチ》 スピーカー 佐藤 義男(さとう よしお)氏 PMAJ 副理事長 株式会社ピーエム・アライメント代表取締役社長 ⇒最終的に93名の参加申し込みがあったが、参加者は会場参加者2名を含めて53名となった。 2回目を6月29日に実施する。 ・次回定例部会を5月23日(火)に実施予定。 ・5月30日 デジタル庁若杉様と2回目の情報交換を開催予定。 ⇒「デジタル社会推進標準ガイドライン」へ、P2M ガイドブックの内容をどのように反映させられるか、について今後検討して行く。 	
	理事 会 タ ス ク	1	部会・SIG 会員交流 タスク	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年4月26日(水) 午後7時～第12回ミーティングを実施。 今年度のPMAJ会員活動全国大会は、2023/11/10(金)(産学官連携PMセミナーの翌日)に実施予定。 時間は14時～17時30分。場所はPMAJ会議室。
	SIG	1	研究開発 MGT SIG	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的:研究開発の成功確率を上げるためのマネジメントの研究 ⇒研究開発をパターン化することによりマネジメントのポイントを明確に出来、効果的なマネジメントが可能となる。
2		WTech SIG	<ul style="list-style-type: none"> ・WTech SIG 勉強会を継続的に実施中。これまでに「Web3.0」をテーマとして、第13回の勉強会を実施。直近の勉強会は以下の通り。 2023年5月18日(木) 19:00～21:00 テキスト:「図解即戦力ブロックチェーンのしくみと開発がこれ1冊でしっかりわかる教科書」コンセンサス・ベイス株式会社(著) 	
3		組織アジリティSIG	<ul style="list-style-type: none"> ・日程調整を行い、都度、ミーティングを実施。次回の予定は以下の通り。 5月23日(火)18:30～20:30 アジャンダ 	

		<p>1)インセプションデッキ 2)皆さんの期待 3)発表資料レビュー</p> <p>・P2023年6月2日(金) 9:30~16:30 に以下を開催予定。 MAJ 特別企画講座「アジャイル開発への道案内」 ～システムを通して業務革新をリードするために～</p>
4	ロードマッピング SIG	<p>・今後は、「学び合いの場」としての位置づけを強化し、持ち回りで知識を共有し意見交換する「抄読会」を開始</p> <p>・活動成果は PM シンポジウム 2023 での発表を想定</p>
5	チェンジマネジメント SIG	<p>・3月末に原稿が完成し出版社(日本能率協会マネジメントセンター)へ提出済</p> <p>・4月より出版社の校正入り、出版は 2023 年 8 月の予定</p>
6	グローバル PM SIG	<p>・原則毎月、定例ミーティングを実施。直近の内容は以下の通り。</p> <p>・2023 年 4 月 24 日(月) 19:00～ から定例会を実施。</p> <p>国内への情報発信をどのように行うかを議論し、プログラムマネジメントのエッセンスを発信する方法を検討することとした。</p>
7	新規事業プログラムマネジメント SIG	<p>・新規事業開発をプログラム/プロジェクト活動と捉え、マネジメント体系としても整理・体系化し、PMAJ のアウトプットとして世の中へ出す。</p> <p>・落とし穴を「チェックリスト」として提示する</p> <p>・セルフマネジメント、リスクマネジメント、ゲートマネジメント に活用して貰う。</p> <p>・「情報の可視化」「人材育成・採用」「インセンティブ・評価」など検討中。</p>
8	PMDX-AWP	<p>・毎週金曜日の打ち合わせを継続。</p> <p>・SIG を母体とした CII の COP(Community of Practice) 日本・アジア支部の立ち上げを目指す。</p>
9	PM ノウハウ継承研究会 SIG	<p>・定例会で、『PM四択問題』、『秘密のエピソード』と呼ぶ『ものがたり』フレームワークを使った研修教材の部品3編と、既存の『ものがたり』改版の試作品2編が順次発表され意見交換を実施。『ものがたり』試作品の査読レビューの結果、木村章一さん作の『朧月夜』(全面マンガの『ものがたり』、Amazon から出版済)を当研究会の正式なアウトプット第一号として全員一致で採択</p> <p>・なお、当研究会のアウトプットとして出版する際に、どのような体裁を整え、どのような条件で出版するかについて、深谷理事と木村さん、有識者とで今後詳細を決めていく必要あり。</p> <p>・PM シンポジウムに、講演テーマ「PMBOK® 第 7 版 12 の原理・原則を事例で伝える『ものがたり』作りについて」で録画講演が決定。全員参加を目標に活動状況と試作品の発表に向けて準備を開始。</p>
10	価値創造型 PM 人材育成研究会 SIG	<p>・これまでのプロジェクトと価値創造型プロジェクトの違いの整理し、推進上の課題を整理し、PM の位置づけ、役割を定義し、必要スキルの差を整理し、人材像を整理し、育成のプロセス案を整理し、具体的な研修コンテンツの検討を行い、活動をまとめて、2024 年の PM シンポジウムでの成果発表を目指す。</p>